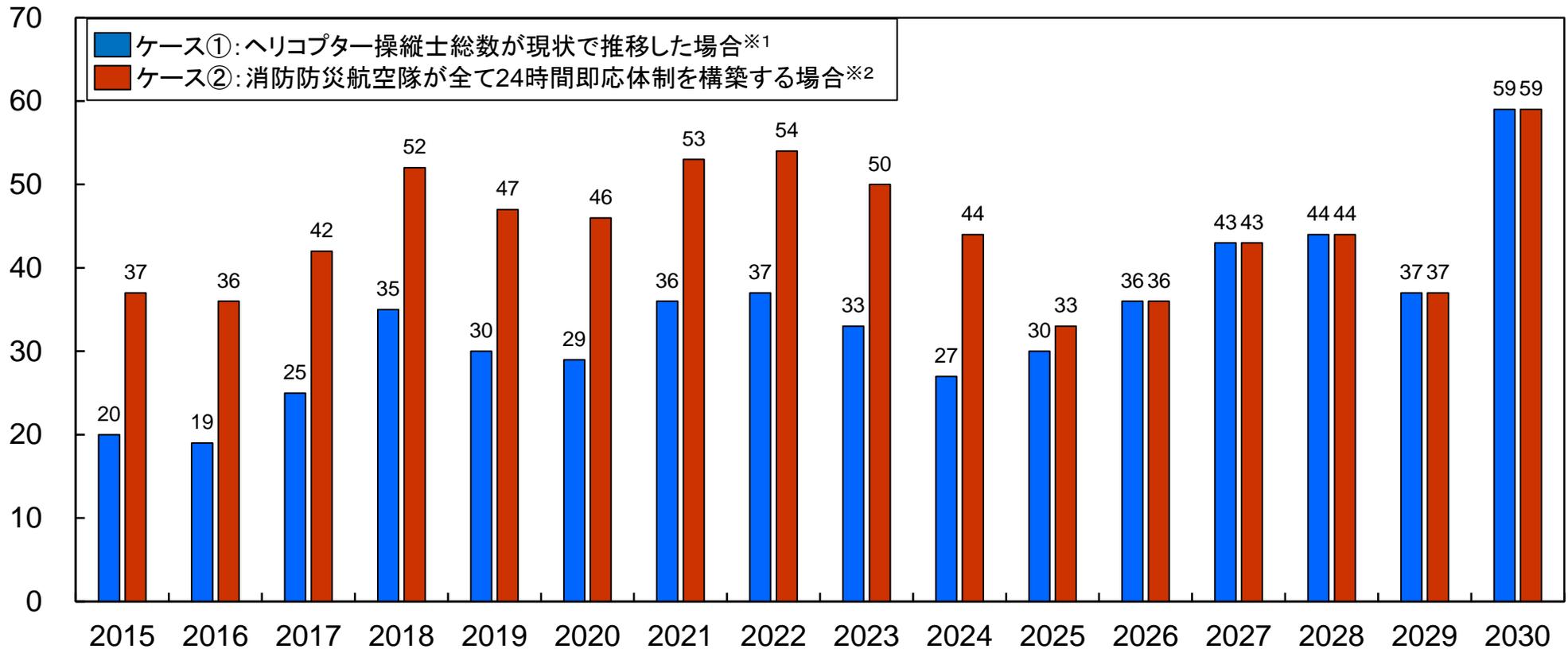


新規ヘリコプター操縦士数の需要予測

(出典：航空局)

- ヘリコプター操縦士の年齢構成等を考慮すると、新規操縦士(新たにライセンスを取る者)の需要は、操縦士総数が現状維持の場合、2020年代前半までは年間40名程度であるものの、2030年ごろには年間約60名程度となる可能性がある。
- 消防防災航空隊の24時間化を考慮すると、必要となる新規操縦士供給量は早期に年間50名程度まで増加する可能性あり。(ただし、新規にライセンスを取得した者が直ちにドクターヘリや消防・防災ヘリに乗務できるわけではないため、ヘリコプター操縦士需要全体の増加分が新規ライセンス取得者の需要増加に直結しない場合も想定される)
- 今後、ドクターヘリ操縦士の需要がさらに増加する可能性がある一方、今後の無人機の発展により現在はヘリコプターで行っている送電線巡視や空撮等の業務が無人機に置き換えられ、需要がさらに減少する可能性も想定される。



※1:ヘリコプター操縦士数(防衛省除く)が現状の1100名で推移し、操縦士が65歳で退職するとして操縦士年齢構成をもとに予測

※2:消防防災航空隊55団体が、24時間即応体制を10年で構築するとして、それに伴う需要増加分と同じ数の新規操縦士が必要になるとして算定